

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【日高振興局】刈払機・チェーンソーのメンテナンス実習
～「農トレ!ひだか」第1回セミナーを開催～

令和6年10月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 新規就農者研修（基礎コース）を開催	
2. 下津町農業士会の「みかん出前授業」	
3. 和歌山地方農村青年交流会を開催 ～地元カフェでの交流会とみかん倉庫と園地見学～	
4. 農業体験学習会で稲刈り体験	
II 那賀振興局	3-4
1. アグリビギナー研修会を開催しました！	
2. 紀の川市4Hクラブが研修会・情報交換会を開催	
3. 紀の川市環境保全型農業グループがワークショップを開催	
4. 那賀地方農業士会女性部会（カトレア会）が情報交換会を開催	
III 伊都振興局	5
1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施	
2. 梅干し贈呈式及び「うめと梅干しのお話し」の実施	
IV 有田振興局	6-7
1. 温州みかんの出前授業（収穫体験）を開催	
2. 広川町でクビアカツヤカミキリの悉皆調査を実施	
3. わかやまプレ万博で日本農業遺産「有田みかんシステム」をPR	
V 日高振興局	8-9
1. 「農トレ！ひだか」第1回セミナーを開催	
2. 由良町農業士会が「ゆら早生」を学校に配布	
3. 御坊市でクビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施	
VI 西牟婁振興局	10
1. クビアカツヤカミキリ現地研修会を実施	
VII 東牟婁振興局	11
1. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施	
VIII 農林大学校	12
1. 1年生のインターンシップ研修	
2. 2年生の市場流通研修	

1. 海南市にて現地活動事例研修会を実施
2. 農業経営指導者研修を実施
3. うめ摘心及びカットバック処理実証ほで研修会を実施

I 海草振興局

1. 新規就農者研修（基礎コース）を開催

農業水産振興課では、農業者の技術向上を図るため、10月8日に農業試験場にて「農薬の適正使用」の研修会を開催し、新規就農者ら5名が出席した。

はじめに、木村技師が農薬の希釈方法や使用基準、適正使用等について説明し、農業試験場の菅野副主査研究員が「害虫防除における薬剤抵抗性対策」と題して講義を行った。

出席者は自身の栽培品目に適用のある農薬のRACコード*を確認しながら、ローテーション散布を行うにはどの農薬を選べばよいかを考えていた。また、講義の後は、農業者同士で交流しながら、ハスモンヨトウのトラップなど試験ほ場の様子を見学した。

出席者からは、「抵抗性やRACコードについて知ることができてよかった」「今後は抵抗性を発達させないような薬剤散布を行っていきたい」等の感想があった。農業者同士の横のつながりもでき、良い機会となった。



農薬の適正使用に関する講義



ほ場見学

※RACコード・・・農薬を作用機構（効き方）ごとに分類したもの

2. 下津町農業士会の「みかん出前授業」

下津町農業士会（会長：馬場伸之氏）は、将来を担う子どもたちに下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力を学んでもらうことを目的として、毎年、地元の下津第二中学校で出前授業を行っている。今年は10月25日、2年生32名を対象に開催した。

昨年は体育館での講義、グループワークでの授業であったが、今回は畑に出向き、石垣で積んだ段々畑や、みかんがなっている樹を見ながら農業士が説明を行った。みかん産地の中学生といっても今では農家の子弟はほとんどいない。あたりまえに見ている景色が農業遺産に認定された全国に誇る産地であることに驚いた様子だった。

農業士が生産したみかんの試食では、一つのみかんが丹精込めて作られていることを感じてくれたようで、「みかんを作るうえで農家さんの大変さや和歌山の魅力をたくさん知ることができた」など、農家の苦労や産地の魅力などについて理解を示す感想も多く、みかん産地で育ったことに誇りを持ちながら成長してくれることを期待できる出前授業となった。



みかん畑での授業



貯蔵庫の見学

3. 和歌山地方農村青年交流会を開催

～地元カフェでの交流会とみかん倉庫と園地見学～

10月26日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：田中克弥氏）及び和歌山地方4Hクラブ連絡協議会（会長：船橋遼司氏）主催で和歌山地方農村青年交流会が開催された。この交流会は、地域農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に関する理解と関心を深めるとともに、地域農業の後継者と消費者の環を生み出すことを目的として、毎年開催している。

当日は、県内外から女性7名、男性7名が参加した。海南市下津町のカフェ KAMOGO でトーク会を開催し、農業についての話などで交流を深めた後、みかん生産者の倉庫において出荷調製について、園地ではみかん栽培について見学会を実施した。当初はみかん収穫体験を予定していたが、雨天のため急遽倉庫と園地の見学に内容が変更になった。参加者はみかんや加工品のジュース・ジャムの試食を行いながら、農業者へ積極的に質問を行っていた。

参加者からは、「普段見ることのできない所を見学できて良かった」、「今まで知らなかったみかんのことを知れた」などの感想が寄せられ、農業に関する理解を深める良い機会となった。



園地での下津蔵出しみかんの説明



トーク会の様子

4. 農業体験学習会で稲刈り体験

農業水産振興課では、農業体験を通じて農産物の生産現場について関心や理解を深め、食べ物を大切にする心を育てることを目的に、体験学習の指導を行っている。10月17日、和歌山市の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校の5年生64名を対象に稲刈りの体験学習会を実施した。

初めに貴志氏から稲作の現状と稲の刈り方について説明を受けた後、稲刈りを体験した。はじめは刈り取り作業に苦勞していた児童たちも、貴志氏の指導を受けながら作業を進めるうちに徐々に慣れ、稲刈りを楽しんでいた。

児童は学校で事前学習をしており、貴志氏に「ジャンボタニシやカメムシの影響はあったか」「すべて人の手で刈るとどれくらい時間がかかるのか」などの質問をし、実際にジャンボタニシの被害を受けた箇所を確認していた。

当課では、今後も小学校と連携して児童への農業教育を進めていく。



農業体験学習会の様子

Ⅱ 那賀振興局

1. アグリビギナー研修会を開催しました！

10月3日、農業水産振興課では、就農5年目までの新規就農者や研修生を対象とした「アグリビギナー研修会」を開催し、7名が参加した。

大西園の樫葉冬季氏を講師にむかえ、自身が行ったレモン園地改造の過程や苗木育成の取り組みについて講義頂いた。樫葉氏からは、農業を続けるためには、園地の状態を見極め、作業しやすいように整えてから栽培を始めることが重要とアドバイスがあった。

講義後は樫葉氏の園地に移動し、改造途中の園地や植物ホルモンを利用した苗木の育成状況を視察した。参加者は、「園地改造にかかる期間は？」、「園地改造の時に、切った木の利用方法は？」、「2年生苗を使わずに1年生苗を使う理由は？」など多くの質問を行っていた。



樫葉氏による講演



園地視察

2. 紀の川市4Hクラブが研修会・情報交換会を開催

10月8日、紀の川市4Hクラブ（会長：宮村康平氏）は那賀振興局にて研修会を開催し、クラブ員7名が参加した。

アリスライフサイエンス株式会社の氏家博明氏を講師に招き、IPM技術の紹介の他、取組にあたっての注意点などの話があり、会員は興味深く聞いていた。会員からは薬剤の散布タイミングや、導入コストなどの質問があり、会員の関心が高いことがうかがえた。

研修会の後に行われた情報交換会では、新たに会員に入ったメンバーの紹介や、視察内容等に多くの提案が出される等、会活動の今後を盛り上げる良い機会となった。



講演の様子

3. 紀の川市環境保全型農業グループがワークショップを開催

10月28日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長小林 元氏）では「紀の川市の農業の未来を共に描く」と題し、ワークショップを開催し11名が参加した。

役員改選を機にグループの目的や方向性を、再度検討し全体で共有するため、ファシリテーターに、はりまぜデザイン代表取締役の角田 誠氏を招き、話し合いを行った。

角田氏より、「紀の川市環境保全型農業グループと聞いても何をしているグループかわからない。まずは名称から考えてみてはどうか、グループの独自性、特徴などのキーワードを思いつくままにたくさん出せば、その中にいいものがでてくることがある」との意見が出され、参加者は思いつくキーワードを出しあった。

ワークショップは全3回を予定しており、次回はでてきたキーワードについて、話し合いを進める予定。



ワークショップでの話し合い

4. 那賀地方農業士会女性部会（カトレア会）が情報交換会を開催

10月29日、那賀地方農業士会女性部会カトレア会（会長：林 澄代氏）が、情報交換会を開催し、7名が出席した。

小泉副主査が、農業士会や農業士に期待される役割について説明した後、参加者は、栽培品目や取り組んでいる加工、趣味など自己紹介を行い、それぞれ質問するなど情報交換をおこなった。

収穫と加工の時期の忙しさや、鳥獣害の発生、後継者の有無やどう農地を守っていくか、趣味の料理や手芸、農作業中に蛇にかまれた話など、様々な話が飛び出し和気あいあいとした情報交換会となった。

参加者からは、「久しぶりに楽しく話げできた」と笑顔がみられ、有意義な情報交換会となった。

今後は、会員の園地見学や料理講習会など、会員同士の交流を深める活動を予定している。



笑顔いっぱいの情報交換会

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施

伊都地方特産のかきを知ることにより、地域農業への理解を深めるとともに、地産地消の推進を図るため、伊都地方農業振興協議会（伊都管内の市町、J A、農業共済、振興局で構成）では、平成 13 年度から小学生を対象にかきの体験学習を行っている。10 月のかきのお話とのかきの渋抜き体験を、管内及び大阪府守口市、和泉市の 6 校の小学校において、319 名の児童を対象に実施した。

かきのお話しでは、和歌山県が日本一のかき産地であることや、かき農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えて楽しみながら説明し、渋抜き体験では、脱渋処理の作業を実演し、児童に同様の作業を体験していただいた。

11 月からは、渋抜き体験にかえて吊るしがき体験を実施する。



かきのお話し



渋抜き体験

2. 梅干し贈呈式及び「うめと梅干しのお話し」の実施

10 月 10 日、和歌山県、和歌山県漬物組合連合会、和歌山県教育委員会共催の元、かつらぎ町立妙寺小学校にて 3,4 年生の生徒 107 名を対象に梅干しの授業を行った。

本事業では県特産品である「梅干し」の歴史、生産方法や機能性などを理解し、より一層身近なものとして梅干しを食する習慣を養い、食への関心を持つことを目的としている。

はじめに、農業水産振興課の南方普及指導員が本県でのうめの生産量やうめの種類に関する話を行い、続けて浅井普及指導員がクビアカツヤカミキリの注意喚起を行った。

また、和歌山県漬物組合連合会から株式会社東農園の柳本氏と株式会社紀州本庄うめよしの裕氏による梅干しの贈呈式を行い、その後フリップを用いてうめの花や梅干しの歴史、効能などに関するクイズを実施した。生徒からは一番値段が高い梅干しは何かなどの質問があがった。

今後も農業水産振興課では、県産品の P R を通じて食育活動を行っていく。



梅干しの贈呈式



梅干しの説明

IV 有田振興局

1. 温州みかんの出前授業（収穫体験）を開催

農業水産振興課では、地元農業への理解を深めるため、総合的な学習として温州みかんの出前授業を例年開催している。

10月9日に有田川町立御霊小学校（3年生 61名）、10月11日に有田市立宮原小学校（3年生、46名）で、本年2回目の出前授業として収穫体験を行った。

最初にそれぞれの学校近隣の園地で、農業士と普及指導員による指導のもと収穫を行い、収穫後はみかんの栄養成分等について説明し、御霊小では糖度の測定、宮原小では有田むきを学んだ後に試食を行った。

今回の授業では児童から「美味しいみかんの見分け方がわかった」、「自分の選んだみかんの糖度を測ることができて楽しかった」等の感想が挙がり、収穫の喜びを児童らに体験してもらうことができた。

今後も、当課では摘果、収穫体験など、地元農業への理解を深めるために学習の支援を行っていく。



武内普及指導員によるみかんの講座
(有田川町立御霊小学校)



収穫体験の様子
(有田市立宮原小学校)



糖度計でみかんの糖度を計測
(有田川町立御霊小学校)



みかんを試食する児童ら
(有田市立宮原小学校)

2. 広川町でクビアカツヤカミキリの悉皆調査を実施

10月7日に広川町内のうめ園で、クビアカツヤカミキリのフラスが発見され、8日の調査により計6本の被害樹が確認された。これを受けて、10月30日に農業水産振興課、広川町の関係課、JAが協力し、被害発生樹から半径1km範囲内で悉皆調査を実施した。本発生園に加え周囲の4園地116本のうめ(露茜)を調査した結果、新たな被害は確認されなかった。

今後も定点調査の実施や、寄せられた通報への対応により早期派遣に努めるとともに防除啓発に取り組んでいく。



10月8日の調査で確認された被害樹



悉皆調査の様子

3. わかやまプレ万博で日本農業遺産「有田みかんシステム」をPR

10月12日～13日に和歌山ビッグウェーブで行われたわかやまプレ万博において、有田みかん地域農業遺産推進協議会(会長:JAありだ森田耕司代表理事組合長、以下協議会)が日本農業遺産「有田みかんシステム」のPRを実施した。

出展ブースでは「わかやまの農業遺産と棚田」と題し、世界農業遺産の認定を目指す有田・下津地域をはじめ、県内の農業遺産地域が連携し、農業遺産制度の認知度向上に向け周知・啓発を図るとともに、有田みかんのPRを行った。ブースには多くの来場者があり、「農業遺産をはじめて知った」、「今年も有田みかんを買います」といった声が寄せられ、好評を頂いた。

農業水産振興課では、引き続き協議会と連携し、農業遺産制度を活用したPRにつなげていく。



賑わう農業遺産ブース



ジオラマを用いた説明

V 日高振興局

1. 「農トレ! ひだか」 第1回セミナーを開催

農業水産振興課では、日高地方の青年農業者や新規就農者等を対象に、経営能力や栽培技術等の向上を目的としたセミナーを毎年2回程度開催している。

10月2日、暖地園芸センターにおいて、「農業機械の安全使用とメンテナンス」というテーマで、わかやま林業労働力確保支援センターの犬飼主任を講師に招いて今年度の第1回セミナーを開催し、8名の参加があった。

参加者は、農作業中の事故が多い刈払機の構造や操作のポイントについての講義を受けた後、自身が持参した刈払機やチェーンソーのメンテナンスについて実習した。

講義や実習の際には、普段から疑問に思っていたことの質問が多く寄せられたほか、「今まで気にせず使用していたので、知ることができて良かった」、「同様の研修を何度か行って欲しい」等の感想や要望があった。



講義と実演

2. 由良町農業士会が「ゆら早生」を学校に配布

10月17日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）は、食育・地産地消活動の一環として、町内全保育園・小中学校に、由良町で生まれた「ゆら早生」全14ケースと農業士会が作成した品種の特徴を説明したパンフレットを配布した。

配布時には贈呈式を行い、会長からは「この機会に由良町が誇るゆら早生について理解を深めてほしい」と話しがあった。



由良中学校での贈呈式と配布されたパンフレット

3. 御坊市でクビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施

昨年 5 月に御坊市のサクラでクビアカツヤカミキリの被害樹を管内で初めて確認して以来、農業水産振興課では拡大防止に向け、関係機関と協力しながら被害樹の伐採指導や周辺の悉皆調査を継続して行っている。

10 月 30 日、御坊市内を調査したところ、新たに園地でうめ 9 本、もも 1 本、すもも 1 本、非園地でサクラ 5 本の被害を確認した。

これで 10 月末現在の管内の被害本数は計 213 本となった（既伐採樹を含む）。

なお、今回の調査をはじめとして、11 月中に管内 6 町での調査を予定している。



調査の様子とフラスの噴出が確認されたうめ

VI 西牟婁振興局

1. クビアカツヤカミキリ現地研修会を実施

クビアカツヤカミキリに関する知識及び被害発生時の対応を学ぶために、J Aや各市町等関係機関で構成する西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：西牟婁振興局農業水産振興課）は、10月17日、日高川町で現地研修会を実施した。

日高川町内のうめの被害発生園において、日高振興局農業水産振興課の行森普及指導員から、日高地域の被害状況、悉皆調査の方法や被害発生確認後に取り組むべき対策について説明を受けた。その後、うめ研究所で裏垣研究員及び向日研究員から成虫飛散防止策であるネット被覆について、実演を交えながら説明を受けたのち、実際に試験場内のうめにてネット被覆を体験した。

ネット被覆を体験する機会がなかなか無いため、当会員にとって大変有意義な研修となった。

クビアカツヤカミキリの被害が近隣地域に迫っているため、今後も関係機関と連携し、早期発見・早期防除対策に努める。



被害園地にて状況説明の様子



ネット被覆研修の様子

Ⅶ 東牟婁振興局

1. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリによる、もも、うめ、サクラなどバラ科植物への被害が紀北及び紀中で確認されている。当地域への侵入、被害の拡大を防ぐため、早期の発見と駆除が重要である。

当課の村畑普及指導員と濱端技師が、10月30日に新宮市以外のクビアカツヤカミキリの発生状況を調査した。16地点のほ場のうめ、公園のサクラ計533本において株元やその周辺にクビアカツヤカミリの成虫やフラスが無いかを目視により確認した。

11月には新宮市のほ場、公園において調査を行う。

今回、成虫やフラスは確認されなかったが、チラシの配布等による生産者や関係機関への注意喚起を継続していく。



調査の様子

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生のインターンシップ研修

9月24日～10月8日、本校1年生17名がインターンシップ研修を行った。研修先については、事前に学生から卒業後の進路希望を聞き取り、将来に繋がる農業法人や先進的な取組を行っている農家、JA、農業関係企業などに受入をお願いした。非農家出身の学生も多く、実際の農家での栽培管理や出荷調整作業など慣れない環境の中、初めて行う作業にも真剣に取り組み、これからの学校生活の中でも活かすことができる貴重な体験をすることができた。学生を受け入れてくださった研修先の皆様に感謝いたします。



長ねぎの播種



温州みかんの肥大調査

2. 2年生の市場流通研修

10月21～25日に市場流通研修を行い、本校2年生10名が参加した。果樹コースと野菜コースの学生は、大阪市中央卸売市場の大果大阪青果（株）と大阪中央青果（株）でそれぞれ研修を行い、花きコースの学生は、（株）なにわ花いちばで研修を行った。

研修では、セリの準備や、買い手の決まった農産物の仕分け作業、荷物の数量確認等を行った。また、講義では、市場の機能や競り、和歌山の農産物の特徴等について説明を受け、質疑応答も行った。

学生からは、「ターレットやフォークリフトが忙しく走っていて、ぶつかりそうで怖かった」、「市場での仕事内容が良くわかった」などの感想があった。

農林大学校では、農産物流通の実態を学ぶために来年度も引き続き市場流通研修を行う。



市場内の見学



市場に関する講義

IX 経営支援課

1. 海南省にて現地活動事例研修会を実施

経営支援課（農業革新支援センター）は、効果的な普及活動の展開に資することを目的として、普及職員協議会と共催により10月7日に普及指導員を対象とした現地活動事例研修を海草振興局管内で開催し、26名が参加した。

講演会では、①昨年7月にオープンした道の駅「サクアス」について、立ち上げ当初から関わっている海南省産業振興課の廣拓志総括班長から、立ち上げ時の苦労や現状などについて、②下津地域の蔵出しみかん農家である藤原良太氏から、「藤原農園の経営戦略と地域活性化」と題して自農園で取り組んでいる経営戦略について説明を受けた。また、今年度の農業普及活動高度化発表会に参加した、伊都振興局の浅井良裕普及指導員から、発表内容と発表会の状況について報告がなされた。それぞれの説明及び報告に対し、多くの質問があり、参加者は熱心に聴いていた。

講演終了後は、海南省のみかん園地を訪ね、海草振興局担当者による経営や栽培の概要説明の後、「あおさん」の高接ぎ園を見学し、参加者は園主に今年の生育状況などを質問していた。

来年度は西牟婁振興局管内にて事例研修会を開催する予定であり、引き続き普及指導員の資質向上に取り組んでいく。



藤原農園の講演を聞く参加者ら



みかん園地見学

2. 農業経営指導者研修を実施

経営支援課（農業革新支援センター）は、普及指導員の経営指導力の向上を目的とした「農業経営指導者研修」を今年度新たに企画した。10月10日、11日に県民文化会館において実施し、県内各振興局から25名の普及職員が参加した。

研修は、税理士法人 風神会計事務所 代表税理士 風神正典氏を講師に招き、初日には経営分析の目的や農業簿記を始めとする基礎的内容を、2日目には決算書の読み解き方の解説や演習による実践的な内容を学んだ。

今後、普及指導員に対する研修として、11月にかき・もも研究所及びうめ研究所で、12月に暖地園芸センターで、2月に果樹試験場でそれぞれ新技術習得研修を実施し、普及指導に必要な技術や知識の向上に努めていく。



農業経営指導者研修を受講する普及職員

3. うめ摘心及びカットバック処理実証ほで研修会を実施

10月29日、うめ摘心及びカットバック処理実証ほを設置している有田地域、日高地域及び西牟婁地域の普及指導員を対象に、それぞれの処理樹を相互に確認し課題や対応等を整理、共有するため研修会を開催し、普及指導員ら10名が参加した。

まず、実証樹を見ながら各振興局の担当普及指導員がこれまでの活動実績や収量、果実階級構成等の結果を説明し、その後参加者との意見交換を行った。他地域の処理樹を見た参加者からは、活発に質問や提案が行われていた。研修会には県うめ研究所の研究者も参加しており、現地実証で判明した課題を試験研究に提示する機会となった。

次年度には、着果している時期にも相互に処理樹を確認できる研修会を企画し、技術への理解を深め指導力向上につなげたい。



処理樹を相互に確認



摘心処理を行った新梢

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489